

第5回孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議に関する意見について

早稲田大学 石田光規

1 50代への注目（とくに男性）

孤立・孤独問題を検討するに当たり、50代近辺の方々は中長期的に課題になると思われます。

この年代は団塊ジュニアにあたるため人口量が多い一方、未婚率の高まりにより自らの家族をつくれていない人がかなりいます。

今後、これらの方々が高齢にさしかかると、孤立・孤独の負の側面が顕在化される可能性が高いです。氷河期世代とも重なりますが、こうした方々に目を向ける必要があると考えております。

2 住宅・まちづくり系の方々の視点（分野横断に関連して）

これまでのメンバーを見ると、社会福祉や子ども・若者系の方々が多いように感じます。

予防的観点で重要なつながりづくりにあたっては、住まいやまちづくりの観点は重要なと思われます。

住総研の研究員などと話したところ、住宅・建築系でも、孤立問題に注目している方がいることがわかりました。

メンバーとして入れるかどうかはさておき、こうした視点は必要だと思われます。